

## アマリリス・・・



♪ソ・ラ・ソ・ド・ソ・ラ・ソ～  
ラ・ラ・ソ・ラ・ソファミレミ～ド  
ソ・ラ・ソ・ド・ソ・ラ・ソ～  
ラ・ラ・ソ・ラ・ソファミレド～♪

可憐で印象的なメロディーは一度耳にすると忘れられません。一時期、小学校低学年の音楽教科書にも掲載されていた「アマリリス」です。今の子どもたちはリコーダーの練習曲として馴染んでいることでしょう。でも、これほど、実物とイメージとのギャップを感じさせる花も珍しいのではないのでしょうか。余りにも豪華で圧倒されます。

このアマリリスが集会室の前に見事な大輪を咲かせています。聞けば去年のグリーン・ボランティア活動で植えていただいたとのこと。うっかりその時は見過ごしてしまいました。

アマリリスは、南アフリカ原産のヒガンバナ科ヒッペアストルム属の多年草の植物です。ヒッペアストルム (Hippeastrum) とは、ギリシャ語の「hippeos (騎士)」と「astrom (星)」が語源で、「騎士のように風格ある星形の花」の意味ということになるのでしょうか。英名は、そのまま「Knight's Star Lily」です。

また、アマリリスという俗名は、もともとはギリシャ語の「輝かしい」という意味ですが、古代イタリアの詩人ヴェルギリウスが、その作品の中で羊の世話や田畑で働く少女の名前に使って以来、健康でお喋りの好きな少女のイメージとして広まったそうです。だからでしょうか、花言葉には「誇り・内気・賛美される恋」などとともに「おしゃべり」もありますから、この花を贈られたら真意について考えなくてははいけませんね。

色は、赤、ピンク、白など様々で鮮やかな色合いに満ち、1本の茎にユリに似た六弁の大きい花を2～4個つけ、順に開花するので2週間ほど花を楽しむことができます。このコラムがお手元に届くころには、花の時期を終えているかもしれませんが、今後球根を増やし群生する日の来ることを楽しみにしたいものです。

最後にもう一度、冒頭紹介した「アマリリス」の曲について触れたいと思います。



作曲者は長くルイ13世(右絵)とされてきました。彼はデュマの小説「三銃士」の時代の国王で、時の宰相が悪役リシュリューということになります。

しかし、教科書の作曲者名は「H・ギース」となっています。彼は「ボレロ」で有名なラヴェルのピアノの先生です。

事実はどうも、ルイ13世が恋人のために詩を書き、それに当時の作曲家達が競ってメロディーを付けたのですが、後世一番有名になったのがギースによるものということのようです。